

浄土宗西山禅林寺派

潮音寺だより

<http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/> ナモの寺 検索
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬一丁 10-11

第336号
平成23年10月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

choonji@aichi.email.ne.jp



【語意】「無我」
我われというところわれを離れること。また、不変
の实体である我がは存在しないとすること。

秋桜の花：超空正道撮影



俺おれが 私わたしが
この我がを出さなければ
厳しい人生レースに
負けてしまうとばかり
角つの突き合わせて
互たがいに争まがい
傷やつけ合うは
修羅しゆら 餓鬼がきの世界
しかし
計はかりり知れない
縁ゆかりの支えなくして
我われの存在はあり得ない
しかも
我われこそと息いき巻まく我われは
都合ぐあひに合あわせた鏡かがみに映うつる
虚像うつろの自分
「諸法しよぼうは無我むがなり」
この智慧ちゐあるところ
そこに仏ぶつの世界

無我

「今、あなたは幸せですか？」と聞かれ、自信を持って「はい」と答えられますでしょうか。

おそらくそういう方は多くはいらっしゃらないでしょう。そこで、質問を変えて、「今、不足不満に思っていることがありますか？」と聞かれたらどうでしょう。

「お金が足りない」「仕事が多すぎる」「○○さんが気に食わない」「若さが欲しい」……と、挙げ出したら、両手使ってもまだ足りないかもしれません。では、この不満というものは、いったい、どこから来るものなのでしょうか。

私も戦後生まれの人間は、「自我の確立」ということを、ひとつの目標として教育されてきたように思います。もちろん、それが間違っているというつもりはありません。

せん。個人個人それぞれが主体性を持つということは、とても大事なことです。しかし、「我」があれば当然「他」があるはずなのに、「我」を強調しすぎると、「他」が見えなくなってしまう。そうすると、自分の都合だけで、判断や行動をしてしまうことになり、エゴとエゴがぶつかり合って、互いに不満が募り、共に不幸になってしまいます。

昨今、勝ち組と負け組、学級崩壊、モンスターペアレント、鬱病や自殺の増加、無差別殺人等々、思いつくまま現代世相の歪みを表すことばをあげていきますと、すべて、この「我」が禍しているように思われます。鬱病と我意識と、一見関係ないように思われるかもしれませんが、「他」を意識できるようになると、鬱病は治る

と聞いたことがあります。

覚えていらつしゃいますでしょうか。何年前か、米国で、肥満・糖尿病になったのは、ハンバーガーのせいだと、マクドナルド社を訴えるという事件がありました。さすがに、この件は却下されたようですが、同じくマクドナルドのドライブスルーで購入したコーヒーを、車内で開け損なってこぼし、火傷したとして訴訟を起こし、こちらは、三億円相当の和解金が支払われたといえます。

これなぞは、訴訟大国といわれる米国ならではのと思うのですが、日本でも近年、ごね得とばかり、権利だけを声高に主張する風潮になってきているのは残念なことです。

これまで、道徳においては「思いやり」、宗教においては、仏教

は「慈悲」、キリスト教では「愛」を説いて、「我」を封じ込めてきました。キリスト教のことはあまりよく知りませんが、鈴木大拙という方が、禅者らしい実にユニークな表現で、このところを解釈されています。イエス・キリストが十字架に架かったのは、「我」を殺させたのだというのです。つまり、「愛とは我を殺すことである」ということであり、この認識があれば、「テロとの戦い」なんという、どちらかが不幸になることが明らかかな発想は出てこないと思うのですが、いかがなものでしょう。

仏教（大乘）でいうところの「無我」の教えは、「縁起—無自性—空」という理論で説明されます。むずかしそうですが、こういうことです。茅という草があり、それを結んで庵を建てたとします。そ

の場合、現象として草庵が出来たことになりませんが、茅の結びが解かれれば、あるのは草だけで、草庵はなくなりません。草庵があるかないかは、縁（縁起—無自性）によるもので、草庵という実体そのものはない（無自性—空）ということになります。順序は逆になりますが、『般若心経』の「色即是空、空即是色」が、まさにこれです。

では、ここで、草庵と我とを置き換えてみましょう。私という我は、両親という直接の因により生を受け、目に見えるもの、見えなものの、多くの縁に支えられて今を生きており、その意味において、無自性なるもの、禅的に申せば、本来無一物であります。つまり、そこには「我」と執着すべきものはなく、「無我」、あるいは「非我」ということになります。

この無我の意識が深まると、「我」を支えてくれている、共に生きている多くの「他」の存在が、かけがえないものとして受け取られるようになってきます。大乘・共生・同朋・山川草木悉皆成仏、表現はそれぞれ異なりますが、この意識の先にあるものこそ、仏の心、「慈悲」であります。

『法句経』二七九番に
「すべての法は

わがものにはあらず」

と、かくのごとく

智慧もて知らば

彼は

その苦しみを厭うべし

これ清浄に入るの道なり

（友松圓諦訳）

とあります。自分自身、延いては、世界の平和は、この「諸法無我」の教えにこそあると確信します。

◎倶利迦羅紋々くりからもんもん

ご存じ名奉行遠山金さんの桜吹雪の入れ墨は、今やテレビ時代劇には欠かせない名アクセサリー。その入れ墨を、我々はいとも容易に「倶利迦羅紋々」と呼んだりするが、これは大変な間違いといっている。

「倶利迦羅」とは梵語ほんごのクリカからきたことばで、実は倶利迦羅王くりからおうのことなのである。しかし、この竜王もまた不動明王の化身の一つ。とはいっても、どんな顔をしているのかはわからない。なぜならこの竜王は、石の上に立った剣に巻きつき、剣を飲むうとしていた竜そのものだからである。つまりは、火焰かえんの中で、剣に巻きついた竜の姿を想像すればいい。

それを背中に入れ墨したのが、正式の倶利迦羅紋々。だから、桜

吹雪や鯉こいの滝登りでは、倶利迦羅紋々とは呼べないのだ。

さて、この剣に巻きつくさまは、やがて形状を表す形容詞ともなる。たとえばつなぎの「倶利迦羅焼」。うなぎの皮を串に巻きつけて焼くのだが、まさに剣に巻きつく竜王そのものといっている。

有名な木曾義仲が戦勝した富山県と石川県の境にある「倶利伽羅峠」は、一見くねくねした形状からつけられた名と考えたくなるが、これは、山中に倶利迦羅不動明王の祠ほこがあったためについたものか。〔仏教のことば〕ひろさちや監修

雑記

▼京都の秋は永観堂

◎寺宝展

11月5日(土)～12月4日(日)



拝観時間：午前9時～午後4時
拝観料：一般1000円・小中校生600円
ライトアップ

11月5日(土)～11月30日(水)
拝観時間：午後5時30分～
午後8時30分(受付終了)

◆金木犀きんももせ
拝観料：一般(中校生以上) 600円

もう九年前になりますが、南庫裏が出来たときに、安井明弘様より、お孫さんの誕生記念にと、金木犀の樹をご寄付いただきました。ただ、これまで、赤芽の生け垣に隠れて植わっていましたので、花付きがあまり良くありませんでした。そこで、この度、新しい駐車場入口の掲示板横に移植しました。ここは日当たりが良いので、この秋が楽しみですよ。

◆想ひ出は頼撫ほなでゆきて金木犀 沐魚